



慢性腎臓病の早期発見で腎臓・心臓・脳を守る ～りんくう総合医療センター 腎臓内科～

慢性腎臓病の初期には全く症状がありません。そのため、腎臓病だと気づかないまま、10年・20年と経過する間に病気が進行します。症状が表れ始めて病院へ行ったときには、すでに腎臓の機能が完全に失われている場合も少なくありません。そんな状態まで病気が進行していると腎臓の機能を回復させることはできません。早期に発見できていれば完全になおる腎臓病がたくさんあるにも関わらず、手遅れのため、腎機能を失ってしまった患者のみなさんを診察することほど残念なことはありません。

さらに、腎臓病が他の病気の原因になることも最近わかってきました。腎臓病があると、脳卒中や心筋梗塞、狭心症などを発症しやすくなるのです。腎臓病はまさに「万病のもと」なのです。そして実は、多くの腎臓病の患者さんは腎臓が完全に悪くなる前に、脳卒中や心臓病が原因で亡くなっているのです。

前でも述べたように慢性の腎臓病は症状がないので、なかなか早期には発見できません。早期に発見する最も良い方法が、健康診断です。勤務先での健康診断や市で実施する健康診査などを毎年受けることが重要なのです。

健康診断を受診し、早期に腎臓病を発見して適切な治療を受けることができれば、腎臓を失わなくて済みます。そればかりではなく、脳卒中や心臓病の予防にもつながるのです。健康診断のなかでも、特に尿検査が重要です。尿にタンパクが出ていれば、腎臓病の初期の段階かもしれません。

市民のみなさんには、健康維持・異変の早期発見のためにも、1人でも多くの人に健康診断を毎年受けていただき、健診の結果で、もし腎臓病の疑いがあるときには、当院の腎臓内科を受診し、早期治療していただくことを願っています。

問合先 地域医療連携室（☎469-3111 Fax469-7929）
ホームページ（<http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/>）